

第1回 文字情報基盤ワーキンググループ 議事概要

1. 日時・場所

2013年9月19日(木) 10:00~12:00

経済産業省本館 17階 第5共用会議室

2. 委員等

委員長

林 史典 聖徳大学/聖徳大学短期大学部 教授
人文学部長/人文学部日本文化学科長/文学部文学科教授

委員

氏原 基余司 文化庁 文化部国語課 主任国語調査官
荻野 敦 財団法人地方自治情報センター
住民基本台帳ネットワークシステム全国センターシステム担当
上席マネージャ
大山 水帆 川口市情報政策課 課長
楠 正憲 文字情報基盤運用検討 SWG 主査
内閣官房 社会保障改革担当室 番号制度推進管理補佐官
篠原 俊博(ご欠席) 総務省 自治行政局住民制度課 課長
(代理出席) 羽根 基博
高田 智和 文字情報基盤文字情報検討 SWG 主査
人間文化研究機構 国立国語研究所 理論・構造研究系 准教授
平本 健二 経済産業省 CIO 補佐官
三上 喜貴(ご欠席)
長岡技術科学大学大学院 技術経営研究科 教授
副学長(国際交流担当)
宮城 安 法務省 民事局民事第一課 補佐官
吉田 悦教 総務省 総合通信基盤局電気通信事業部 高度通信網振興課 課長

(委員 50 音順)

オブザーバ

内閣官房 情報通信技術 (IT) 総合戦略室
総務省 行政管理局行政情報システム企画課

法務省 大臣官房秘書課情報管理室

事務局

田代 秀一 独立行政法人情報処理推進機構 技術本部国際標準推進センター長

小林 龍生 独立行政法人情報処理推進機構 技術本部国際標準推進センター 専門委員

主催者

和田 恭 経済産業省 情報プロジェクト室 室長

3. 議事概要

3.1 開会挨拶、自己紹介

和田経済産業省情報プロジェクト室長より開会挨拶の後、参加者からの自己紹介を行った。

3.2 今年度からの検討体制について

資料 2 に基づき、今までの経緯、6 月の閣議決定および工程表における文字情報基盤の位置付け、新しい検討体制、及び今後のスケジュールについて説明。

3.3 事務局報告

3.3.1 昨年度事業

参考資料 1 に基づき、昨年度に実施した自治体実証実験における文字情報基盤適用実証実験、文字情報基盤 Web 実証実験について報告。

参考資料 2 に基づき、文字情報基盤データベースの概念設計について報告。

3.4 サブワーキンググループ（SWG）からの報告

3.4.1 文字情報検討 SWG からの報告

資料 3 に基づき、国際標準化状況について説明。残されていた約 1800 字の符号化提案が昨年 11 月に ISO に受理され、文字情報基盤全ての文字が ISO プロセスに乗った。漢字字形データベース(IVD)への漢字字形指示列(IVS)の登録について、情報規格調査会 SC2 専門委員会が登録者となって手続きを開始した。

3.4.2 運用検討 SWG からの報告

資料 4 に基づき運用検討 SWG において検討している導入ガイドについて説明。国際符号化状況、情報システムの新技术（漢字字形指示列（IVS））への対応等が過渡

的狀態にある中で、国際標準と矛盾せず、経済合理性を考慮し、技術・標準化の進展に即した現実的な導入の手順を作成するとの方針が示された。また、導入ガイドは技術的観点に絞り、文字そのものの運用ポリシーはスコープ外とする方針が示された。

3.5 成果物バージョンアップについて

資料5に基づき、本年度に予定している文字情報基盤成果物のバージョンアップ案について説明。MJ文字図形名とUCSとの対応関係調査が大きく進んだことから、これを反映させるため文字情報一覧表を大きく改定する。また、フォントについてメトリクス改善等のマイナーバージョンアップを行う。

3.6 質疑・応答

- 登記統一文字については、今後どのように取り込んでいくことになるのか。
⇒ 本プロジェクトは人名漢字を対象としており、登記統一文字は対象に含めていなかった。イメージによる伝達なども含めて検討したい。
- 震災後に戸籍の電算化が加速するなかで、文字の追加要求は起きていないか。
⇒ 今のところそのような要求は顕在化していない。
- 委員長より、文字の追加状況等の情報共有、運用ガイド作成などについて、関係省庁へのご協力をお願いしたい旨発言があった。
- 事務局より、戸籍文字の追加など、早めに情報をいただければ、すみやかにISOの標準化プロセスにのせる努力をする旨説明があった。
- その他、特に異議なく議論を終了した。

3.7 その他

事務局から今後の進め方について説明。次回は、導入ガイドのドラフトについての審議を依頼したい。必要に応じ、中間でのメール審議をお願いすることも検討している。

3.8 和田室長より閉会の挨拶。

文字情報基盤導入ガイドラインについて、閣議決定の趣旨にそって効率的に政府システムを構築できるよう、年度内の作成に向け、本WGおよび運用SWGをお願いするとともに、関係省庁からのご協力をお願いしたい。

以上